

年末年始のTV番組

吉田 真人

熱心なTV視聴者ではないが、スポーツ番組（プロ野球ナイトゲームと競馬中継）や国際政治・経済番組はよく見る。年末年始は、普段見るそれらの番組がなくなってしまうので、困りものだ。

「NHK紅白歌合戦」は、最近全く見たことがない。大袈裟に言えば今世紀になつてからはゼロだ。

昨年と同番組メニューを見ると、紅白23人ずつの出演者のうち名前とその持ち歌も知っている歌手は、紅2白1であった。名前だけは聞いた事のある人がこの他にプラス数名、これでは到底見る気は起こらない。最近は「特別枠」というものがあるらしく、こちらにも何人か知った歌手の名前があるが、チャンネルを向けるインセンティブとはならない。

ビデオリサーチ調べでは、昨年の関東地区視聴率は過去2番目の低さながら、35.3%。未だ人気健在というべきか、それとも他に見るべき番組がなかったのか。

40年近く前のロンドン駐在時、まだ国際衛星放送という利器はなかったたので、正月明けに日本人クラブが公会堂を借りてこの番組の上映会を催していた。どれ位の集客があったかは、行った事がないので不明だが、当時は国民的関心事であった現われだろう。

NHKは紅白を見ない人を慮ってか、大晦日にBSでほぼ終日洋画を流した。トム・ハンクス「フォレストガンプ」、マリリン・モンロー「帰らざる河」を楽しめた。ソフィア・ローレン「ひまわり」は泣けてくるので敬遠した。

元旦はウィーンフィル・ニューイヤーコンサートが楽しみだ。一昨年は無観客、昨年は観客千人に制限されていたが、今年は制限なし。ただし心なしか会場の照明が少し暗く、また女性客の服装も地味であったように感じられた。指揮は地元ウエルザー・メスト、最終曲を除き全てこのコンサート初演の曲で構成した。新しさを狙い過ぎで、新春には聞き慣れた曲が好ましい、と思える。

演奏中に画面に映されるバレエは、歴史的建物のなかで舞われる事と相俟って、毎年の事ながら美しく楽しい。

(2023年1月26日)